

2019年5月30日

各位

ADK マーケティング・ソリューションズ
エクスペリエンス・デザインセンターを拡充
デジタル&データドリブン視点でデジタルクリエイティブ開発力を強化

株式会社 ADK マーケティング・ソリューションズ(本社:東京都港区、代表取締役社長:植野伸一、以下 ADK MS)は、コンシューマー・アクティベーション・カンパニーへの変革を進める中、デジタルメディアの文脈に適したクリエイティブ開発に、ますます注力しております。2019年1月の組織改編では、ADK MS 内にエクスペリエンス・デザインセンターを設置し、デジタルテクノロジーを踏まえた広告クリエイティブで CX※を開発できる体制を整えております。このたび、「LINE Expand Ad」を活用した開発実績が LINE 株式会社の LINE for Business でも取り上げられましたので、ご紹介いたします。

※ CX (カスタマーエクスペリエンス)

顧客の視点から見た、製品・サービスの利用前・利用時・利用後における、企業との一連の接点において得られる体験価値。製品・サービスの機能的価値に加え、情緒的価値、社会的価値を含む。

スマートフォンの普及により、ユーザーとのタッチポイントも多様化しており、デジタルデバイス上での広告掲載面や、ユーザーの接触状況に適したデジタルメディア起点のクリエイティブ開発ニーズが高まっております。

このニーズに対応し、ADK MS ではエクスペリエンス・デザインセンター内にデジタル起点のクリエイティブ開発に対応できる EX-クリエイティブユニットを設け、従来型のマス発想の広告クリエイティブ制作に加え、データドリブン視点でデジタルメディアに適したクリエイティブ開発にも対応できる体制を整えました。同ユニットは、デジタルソリューションプランナーや 2018年4月にクリエイティブ部門から移籍したクリエイティブディレクター、アートディレクターおよびプランナーに加え、デジタル広告のPDCA 経験豊富なクリエイターやオンライン動画プランナーなどが新たに参加し、多彩なメンバーでクオリティの高いCXの開発・提案をしております。

こうした取り組みの一例として、このたび、LINE 株式会社の提供する「LINE Expand Ad」※1におきまして「Visa」が提供する非接触決済サービス『Visa のタッチ決済』の認知向上施策のクリエイティブ開発を行い、その効果が LINE 株式会社の LINE for Business にも掲載されておりますので、ご紹介いたします。

本事例では、「LINE Expand Ad」配信後にユーザーへ向けたブランドリフト調査を実施。即座にクリエイティブ開発にフィードバックし、LINE タッチポイント上でのユーザー接触態度を考慮したPDCA を実行することで、ユーザーの『Visa のタッチ決済』認知度を高めることに成功しました。

ブランドリフト率を迅速に調査し、動画の効果的な見せ方やバナーのデザインを短期間で修正し認知率を高めた、デジタルクリエイティブのPDCA 好事例といえます。

<本施策の概要>

2018年10月、2018年12月の2回にわたり「LINE Expand Ad」を実施。

1回目のブランドリフト調査結果を、即座に2回目のクリエイティブ開発へ反映し、ブランドリフト効果のさらなる向上を実現した。

<ADK MS スタッフ>

DDM マネジメントセンター 新井 健史

エクスペリエンス・デザインセンター EX クリエイティブユニット 阿字地 睦、伴野 和孝、佐々木 新一

デジタルビジネスプロデュース本部/アドテクセンター 苅込 大貴

アドテクセンター 藤森 祐貴

<LINE for Business>

<https://www.linebiz.com/jp/case-study/visa>

「クリエイティブの改善でブランドリフト効果が約2倍に！ Visa の『LINE Expand AD』活用のポイントとは？」

ADK MS は引き続き、消費者の行動を喚起し、広告主のビジネス成果に貢献する「コンシューマー・アクティベーション・カンパニー」として、様々なデジタルテクノロジーを活用した効果的なソリューションサービスを提供してまいります。

本件に関するお問い合わせは下記までお願いします。

株式会社 ADK ホールディングス

グループ広報室 中島/平尾

TEL: 03-6830-3855 e-mail: adkpr@adk.jp